

【 目次 】

- 1 昼夜間人口等の推移
- 2 県内14市昼夜間人口等
- 3 従業地・通学地別人口の推移
- 4 従業地・年齢・男女別15歳以上就業者
- 5 通学地・年齢・男女別通学者
- 6 流出入地別15歳以上就業者・通学者
- 7 従業地・産業別15歳以上就業者
- 8 従業地・職業別15歳以上就業者
- 9 常住地・産業別15歳以上就業者
- 10 常住地・職業別15歳以上就業者
- 11 15歳以上通勤・通学者の利用交通手段

— 利用上の注意 —

1. この結果は、令和2年10月1日現在で行われた令和2年国勢調査の調査票を集計した従業地・通学地による人口・就業状態等集計結果（令和4年7月22日総務省統計局から公表）を基に集計しています。
詳細な結果は、下記URL（総務省統計局）を参照してください。
URL： <https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2020/kekka.html>
2. 割合は、特に注記のない限り、分母から不詳を除いて算出しています。
3. 小数点以下の数値について、特に標記のないものは小数点以下第3位を四捨五入しています。
また、構成比の数値についても小数点以下第3位を四捨五入しているため、合計は必ずしも100%とならない場合があります。

【 用語の解説 】

従業地・通学地による人口・就業状態等集計とは

当該集計は、すべての調査票を用いて、従業地・通学地による人口の構成や現在住んでいる市区町村と従業地・通学地の市区町村との関係などを集計した結果です。この結果によって、昼間人口や昼夜間人口比率などを把握することができます。

従業地・通学地

「従業地・通学地」とは、就業者が仕事をしている場所又は通学者が通学している学校の場所をいい、次のとおり区分しています。なお、外勤の職員、運転手などのように雇われて戸外で仕事をしている人については、所属している事業所のある市区町村を、船の乗組員（雇用者）については、その船が主な根拠地としている港のある市区町村をそれぞれ従業地としています。

区分	内容
自市区町村	従業地・通学地が現在住んでいる市区町村と同一の市区町村の者
自宅	従業地が自宅の者
自宅外	従業地・通学地が「自宅」以外の者
他市区町村	従業地・通学地が現在住んでいる市区町村以外の者
県内他市町村	従業地・通学地が同じ都道府県内の他市町村の者
他県	従業地・通学地が他の都道府県の者
従業・通学市区町村「不詳・外国」	従業地・通学地が現在住んでいる市区町村以外であるが、市区町村名が不詳の者又は外国の者
従業地・通学地「不詳」	従業地・通学地が不詳の者

夜間人口（常住地による人口）

調査時（令和2年10月1日）に調査の地域に常住している人口。

昼間人口（従業地・通学地による人口）

当該集計の結果を用いて、次の式により算出された人口。

なお、夜間勤務及び夜間通学の者も昼間人口に含まれていますが、買い物客や観光客などは含まれていません。

$$\text{昼間人口} = \text{夜間人口} - \text{流出人口} + \text{流入人口}$$

※流出人口：宇城市から宇城市以外への通勤・通学者数

流入人口：宇城市以外から宇城市への通勤・通学者数

昼夜間人口比率

次の式により算出され、100を上回っているときは昼間人口が夜間人口を上回ることを示し、100を下回っているときは昼間人口が夜間人口を下回ることを示しています。

$$\text{昼夜間人口比率} = (\text{昼間人口} / \text{夜間人口}) \times 100$$

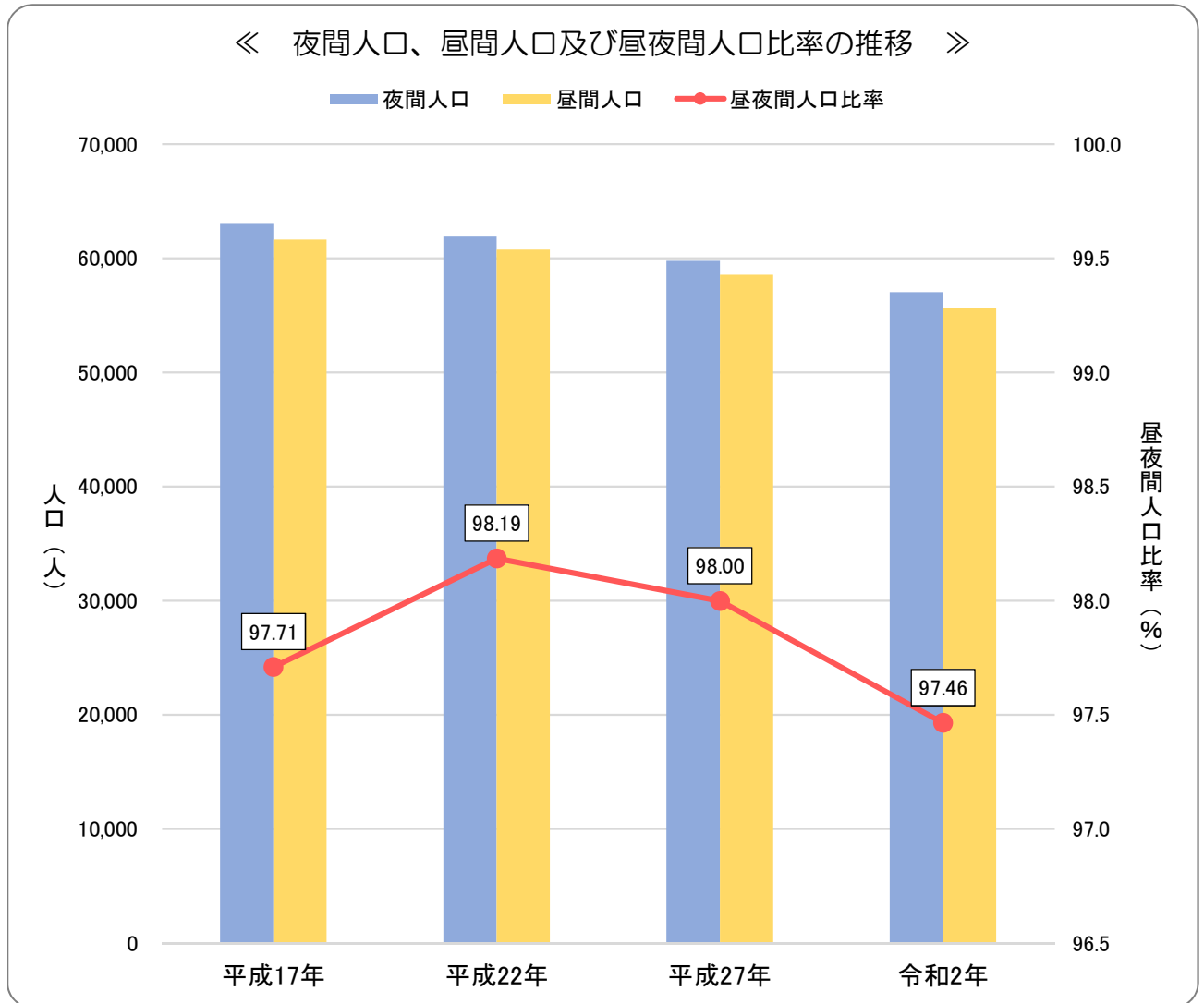
その他の用語

その他の用語は、『令和2年国勢調査 調査結果の利用案内 ―ユーザーズガイドー』を参照してください。

<https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2020/kekka/sankou.html>

【 昼夜間人口等の推移 】

令和2年における宇城市の昼間人口は55,586人で、流入人口が10,352人、流出人口が11,798人となっており、昼夜間人口比率（夜間人口100人当たりの昼間人口）は97.46%となっています。



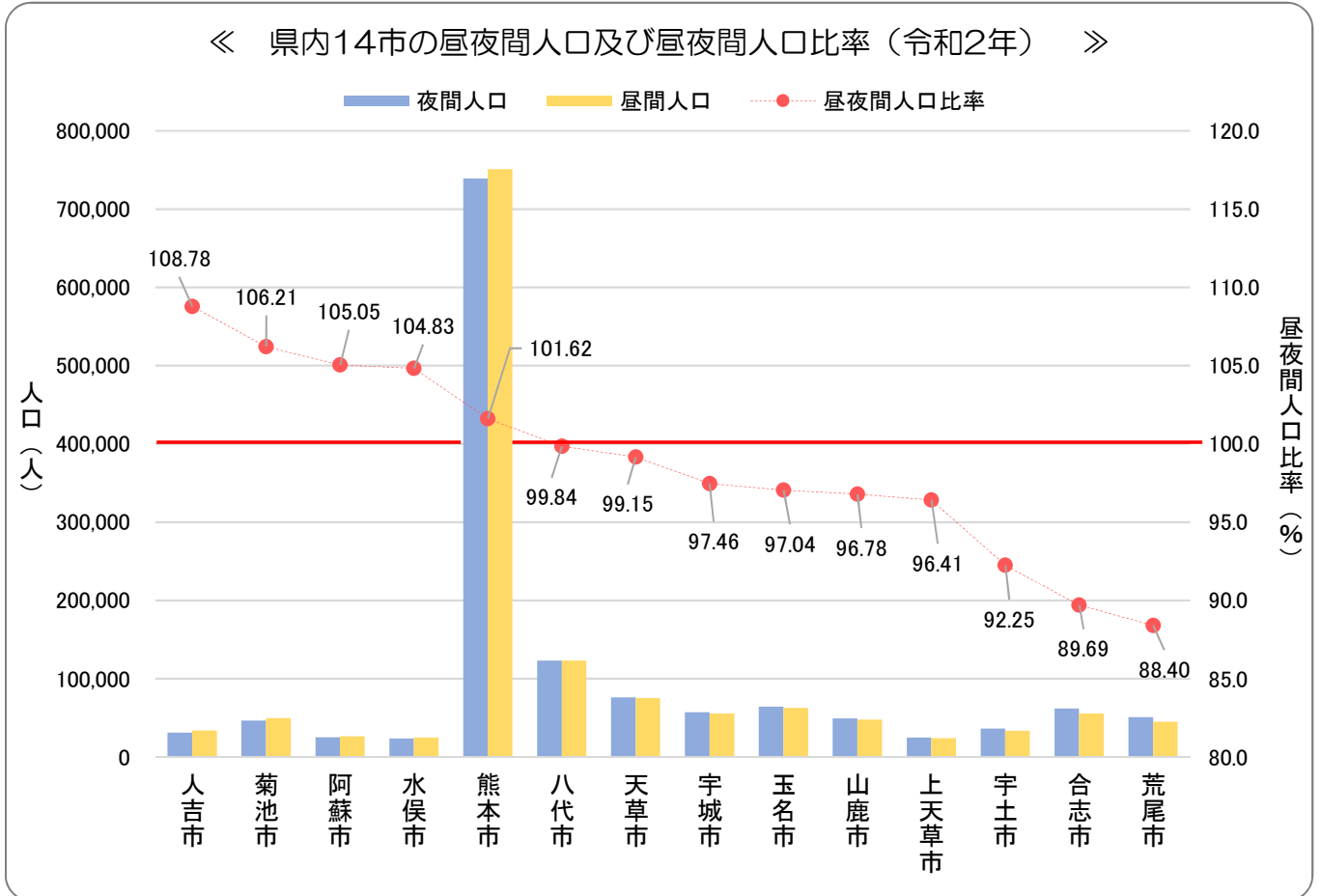
○昼夜間人口等の推移

年	夜間人口 (人)	昼間人口 (人)	流出人口 (人)	流入人口 (人)	流入超過人口 (人)	昼夜間人口 比率 (%)
平成17年	63,086	61,641	11,894	10,449	△ 1,445	97.71
平成22年	61,878	60,755	12,316	10,688	△ 1,628	98.19
平成27年	59,756	58,560	12,230	11,034	△ 1,196	98.00
令和2年	57,032	55,586	11,798	10,352	△ 1,446	97.46

【 県内14市昼夜間人口等 】

県内14市別で昼間人口をみると、熊本市が750,814人で最も多く、次いで、八代市が122,876人、天草市が75,140人などとなっており、宇城市は5番目に多くなっています。

また、昼夜間人口比率をみると、最も高い人吉市が108.78%、次いで、菊池市が106.21%など5市が100を上回っている一方、最も低い荒尾市が88.4%、次いで、合志市が89.69%など宇城市を含む9市において100を下回っています。



○県内14市の昼夜間人口等の状況（令和2年）

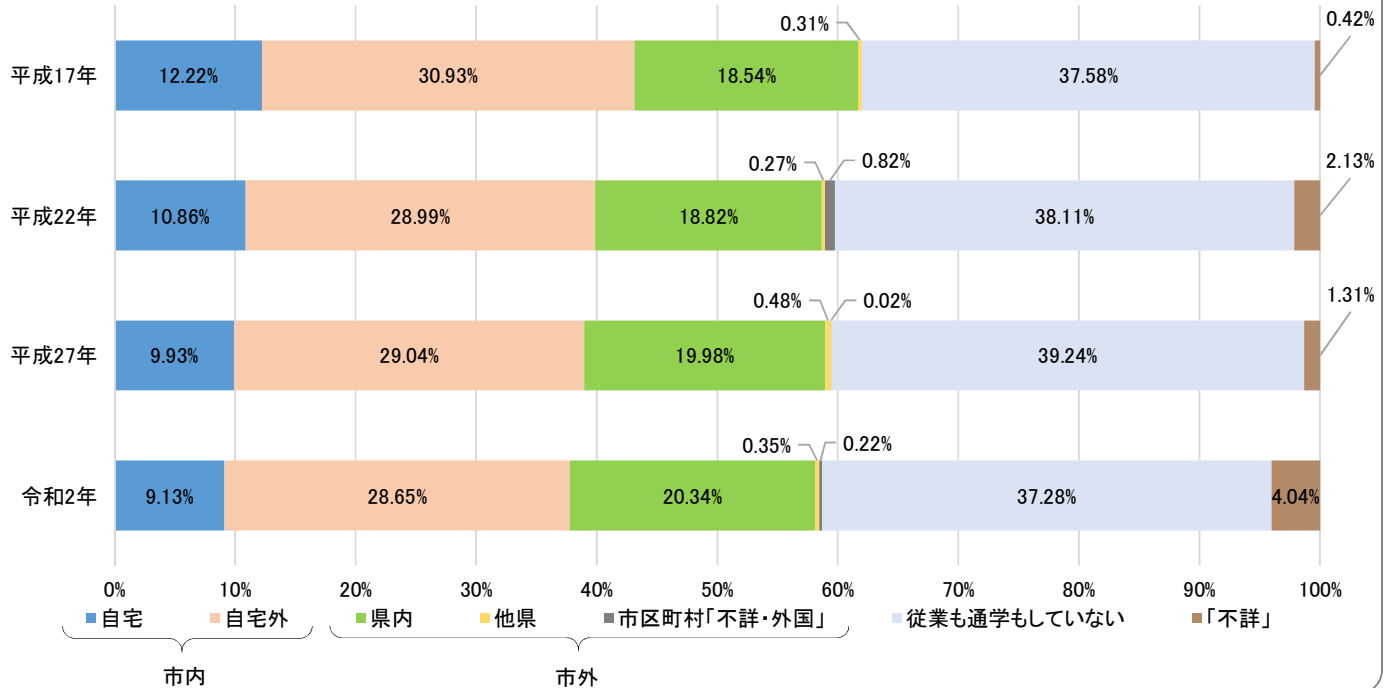
	夜間人口 (人)	昼間人口 (人)	流出人口 (人)	流入人口 (人)	流入超過人口 (人)	昼夜間人口 比率 (%)
人吉市	31,108	33,838	3,246	5,976	2,730	108.78
菊池市	46,416	49,300	9,057	11,941	2,884	106.21
阿蘇市	24,930	26,188	2,014	3,272	1,258	105.05
水俣市	23,557	24,694	1,785	2,922	1,137	104.83
熊本市	738,865	750,814	57,098	69,047	11,949	101.62
八代市	123,067	122,876	8,275	8,084	△191	99.84
天草市	75,783	75,140	2,408	1,765	△643	99.15
宇城市	57,032	55,586	11,798	10,352	△1,446	97.46
玉名市	64,292	62,390	11,490	9,588	△1,902	97.04
山鹿市	49,025	47,447	7,753	6,175	△1,578	96.78
上天草市	24,563	23,682	2,379	1,498	△881	96.41
宇土市	36,122	33,324	9,180	6,382	△2,798	92.25
合志市	61,772	55,406	19,840	13,474	△6,366	89.69
荒尾市	50,832	44,938	12,569	6,675	△5,894	88.40

【 従業地・通学地別人口の推移 】

宇城市の総人口57,032人を従業地・通学地別にみると、「市内」が37.77%、「市外」が20.91%、「従業も通学もしていない」が37.28%となっています。

「市内」で従業・通学をしている割合の低下が続いています。

≪ 従業地・通学地別人口の割合 ≫



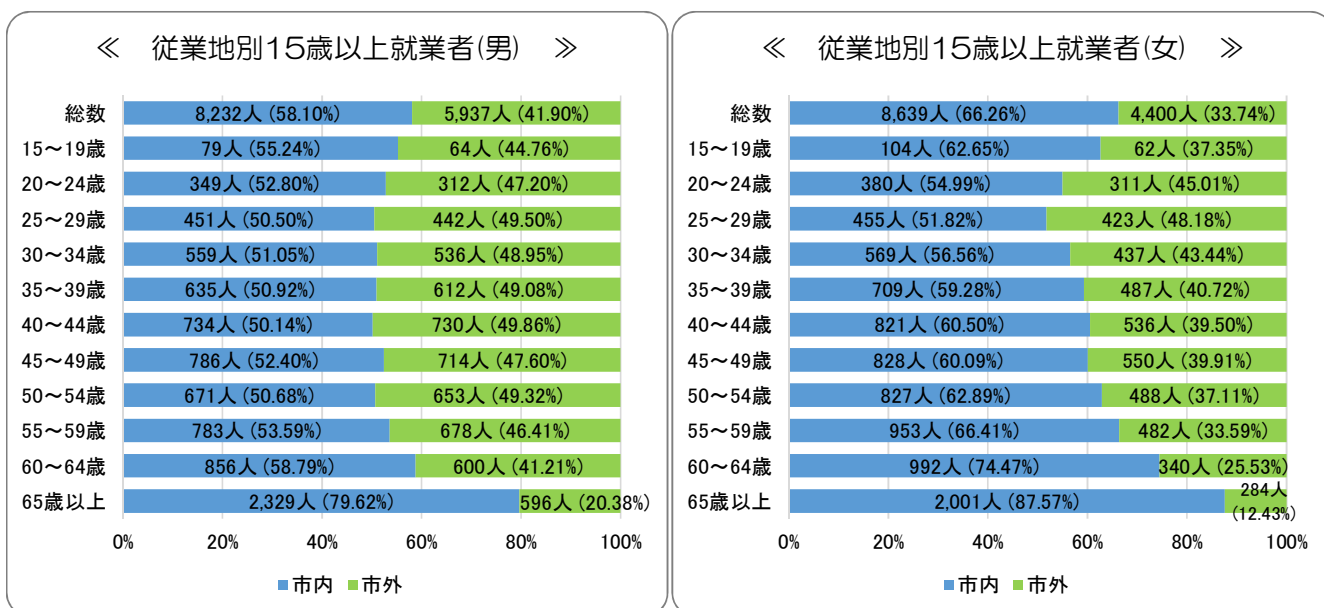
○従業地・通学地別人口の推移

	実数（人）				割合（％）			
	令和2年	平成27年	平成22年	平成17年	令和2年	平成27年	平成22年	平成17年
常住人口（夜間人口）	57,032	59,756	61,878	63,086	100.00	100.00	100.00	100.00
従業も通学もしていない	21,264	23,449	23,582	23,707	37.28	39.24	38.11	37.58
従業又は通学をしている	33,466	35,527	36,975	39,115	58.68	59.45	59.75	62.00
市内で従業・通学	21,542	23,287	24,659	27,221	37.77	38.97	39.85	43.15
自宅	5,205	5,932	6,723	7,710	9.13	9.93	10.86	12.22
自宅外	16,337	17,355	17,936	19,511	28.65	29.04	28.99	30.93
市外で従業・通学	11,924	12,240	12,316	11,894	20.91	20.48	19.90	18.85
県内	11,601	11,942	11,643	11,698	20.34	19.98	18.82	18.54
他県	197	288	168	196	0.35	0.48	0.27	0.31
市区町村「不詳・外国」	126	10	505	—	0.22	0.02	0.82	—
「不詳」	2,302	780	1,321	264	4.04	1.31	2.13	0.42
（再掲）流出人口	11,798	12,230	11,811	11,894	20.69	20.47	19.09	18.85

【 従業地・年齢・男女別15歳以上就業者数 】

15歳以上就業者に占める従業地別の割合を、男女・年齢（5歳階級）別にみると、「市内」は、男女ともに65歳以上が最も高くなっています。

「市外」については、男性では40～44歳が49.86%で最も高く、次いで、25～29歳が49.5%となっており、女性では25～29歳が48.18%で最も高く、次いで、20～24歳が45.01%となっています。



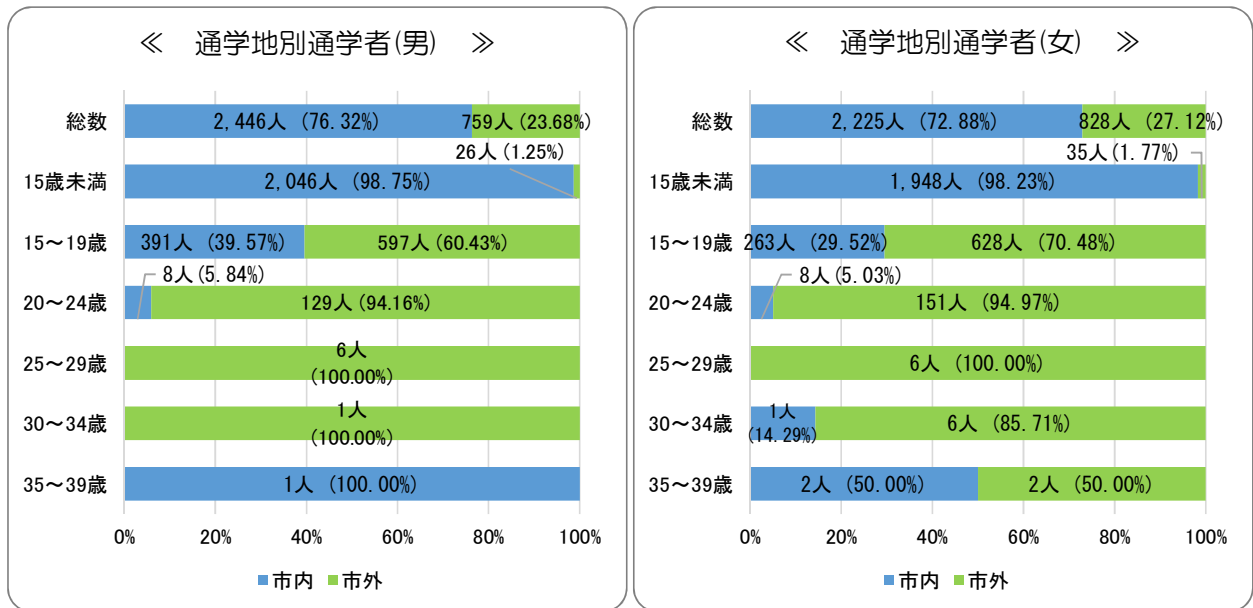
○従業地・年齢（5歳階級）、男女別15歳以上就業者数

(単位:人)

区分	総数	市内	自宅	自宅外	市外	県内	県外	市区町村 「不詳・外国」	従業地 「不詳」
総数	27,418	16,871	5,205	11,666	10,337	10,110	137	90	210
15～19歳	312	183	9	174	126	123	1	2	3
20～24歳	1,362	729	77	652	623	606	10	7	10
25～29歳	1,782	906	96	810	865	851	9	5	11
30～34歳	2,118	1,128	176	952	973	957	9	7	17
35～39歳	2,455	1,344	235	1,109	1,099	1,079	15	5	12
40～44歳	2,845	1,555	291	1,264	1,266	1,241	18	7	24
45～49歳	2,901	1,614	318	1,296	1,264	1,244	14	6	23
50～54歳	2,669	1,498	373	1,125	1,141	1,119	16	6	30
55～59歳	2,915	1,736	473	1,263	1,160	1,132	18	10	19
60～64歳	2,801	1,848	643	1,205	940	904	18	18	13
65歳以上	5,258	4,330	2,514	1,816	880	854	9	17	48
男	14,285	8,232	2,953	5,279	5,937	5,768	120	49	116
15～19歳	145	79	6	73	64	61	1	2	2
20～24歳	665	349	46	303	312	302	7	3	4
25～29歳	901	451	65	386	442	433	6	3	8
30～34歳	1,103	559	98	461	536	526	6	4	8
35～39歳	1,255	635	143	492	612	594	14	4	8
40～44歳	1,477	734	173	561	730	711	16	3	13
45～49歳	1,512	786	198	588	714	698	14	2	12
50～54歳	1,341	671	216	455	653	637	14	2	17
55～59歳	1,469	783	255	528	678	656	17	5	8
60～64歳	1,464	856	331	525	600	572	17	11	8
65歳以上	2,953	2,329	1,422	907	596	578	8	10	28
女	13,133	8,639	2,252	6,387	4,400	4,342	17	41	94
15～19歳	167	104	3	101	62	62	0	0	1
20～24歳	697	380	31	349	311	304	3	4	6
25～29歳	881	455	31	424	423	418	3	2	3
30～34歳	1,015	569	78	491	437	431	3	3	9
35～39歳	1,200	709	92	617	487	485	1	1	4
40～44歳	1,368	821	118	703	536	530	2	4	11
45～49歳	1,389	828	120	708	550	546	0	4	11
50～54歳	1,328	827	157	670	488	482	2	4	13
55～59歳	1,446	953	218	735	482	476	1	5	11
60～64歳	1,337	992	312	680	340	332	1	7	5
65歳以上	2,305	2,001	1,092	909	284	276	1	7	20

【 通学地・年齢・男女別通学者数 】

通学者に占める通学地別の割合を、男女・年齢（5歳階級）別にみると、「市内」については、男女ともに15歳未満が最も高くなっており、15歳以上は「市外」の割合が高くなっています。



○通学地・年齢（5歳階級）、男女別通学者数

(単位:人)

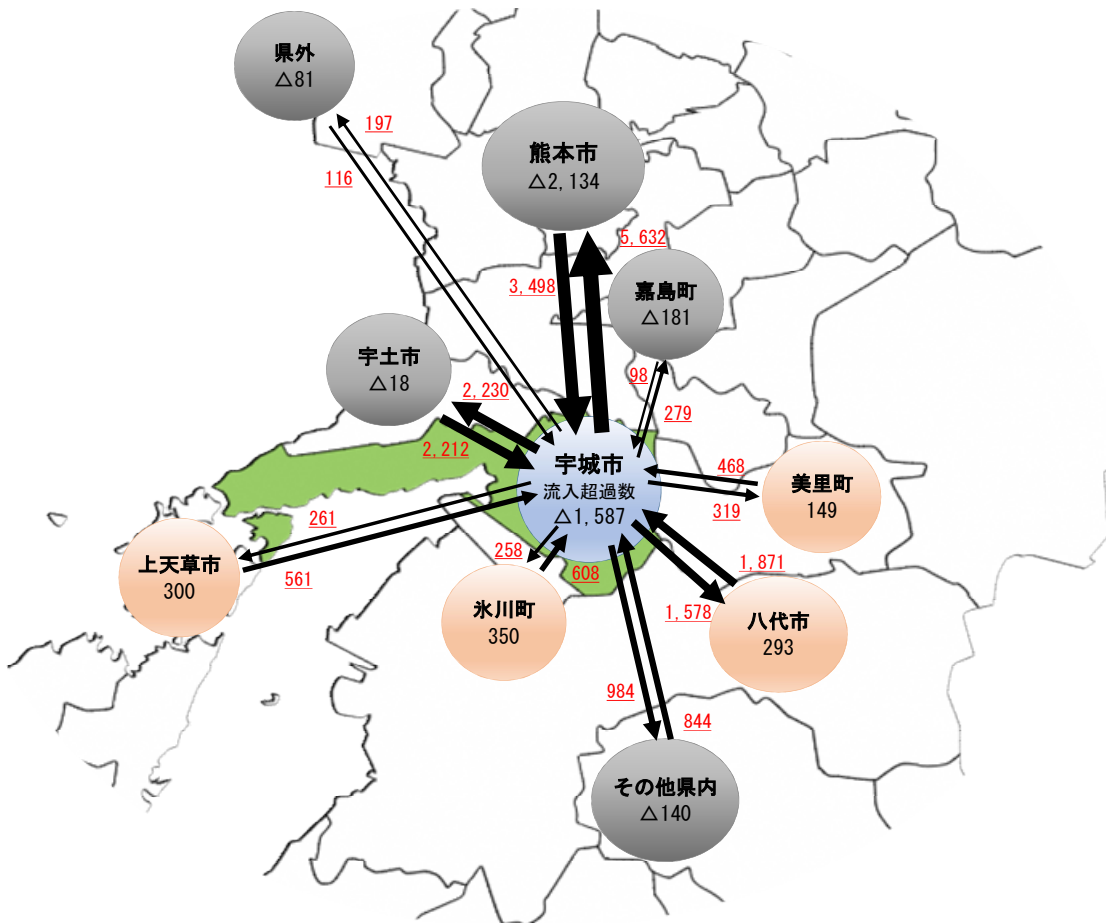
区分	総数	市内	市外	県内	県外	市区町村 「不詳・外国」	通学地 「不詳」
総数	6,562	4,671	1,587	1,491	60	36	304
15歳未満	4,319	3,994	61	60	0	1	264
15～19歳	1,917	654	1,225	1,186	25	14	38
20～24歳	298	16	280	228	33	19	2
25～29歳	12	0	12	10	2	0	0
30～34歳	8	1	7	5	0	2	0
35～39歳	5	3	2	2	0	0	0
40～44歳	0	0	0	0	0	0	0
45～49歳	1	1	0	0	0	0	0
50～54歳	1	1	0	0	0	0	0
55～59歳	0	0	0	0	0	0	0
60～64歳	0	0	0	0	0	0	0
65歳以上	1	1	0	0	0	0	0
男	3,361	2,446	759	713	25	21	156
15歳未満	2,206	2,046	26	25	0	1	134
15～19歳	1,009	391	597	577	10	10	21
20～24歳	138	8	129	104	15	10	1
25～29歳	6	0	6	6	0	0	0
30～34歳	1	0	1	1	0	0	0
35～39歳	1	1	0	0	0	0	0
40～44歳	0	0	0	0	0	0	0
45～49歳	0	0	0	0	0	0	0
50～54歳	0	0	0	0	0	0	0
55～59歳	0	0	0	0	0	0	0
60～64歳	0	0	0	0	0	0	0
65歳以上	0	0	0	0	0	0	0
女	3,201	2,225	828	778	35	15	148
15歳未満	2,113	1,948	35	35	0	0	130
15～19歳	908	263	628	609	15	4	17
20～24歳	160	8	151	124	18	9	1
25～29歳	6	0	6	4	2	0	0
30～34歳	7	1	6	4	0	2	0
35～39歳	4	2	2	2	0	0	0
40～44歳	0	0	0	0	0	0	0
45～49歳	1	1	0	0	0	0	0
50～54歳	1	1	0	0	0	0	0
55～59歳	0	0	0	0	0	0	0
60～64歳	0	0	0	0	0	0	0
65歳以上	1	1	0	0	0	0	0

【 流出入地別15歳以上通勤・通学者 】

15歳以上就業者・通学者の宇城市からの流出口（市外へ通勤・通学する者）は11,863人である一方、宇城市への流入人口（市外から通勤・通学する者）は10,276人で、流出口が流入人口を上回っており、1,587人の流出超過となっています。

宇城市と県内市町村との流入・流出人口をみると、流入人口では熊本市からの流入が3,498人と最も多く、次いで、宇土市、八代市となっており、この3市で全体の7割以上を占めています。流出人口においても、流入人口と同様に熊本市への流出が5,632人と最も多く、次いで、宇土市、八代市となり、3市で全体の8割以上を占めています。なお、流入超過数でみると、八代市や氷川町、上天草市などで流入人口が流出人口を上回っており、流入超過となっています。

《 流出・流入地別15歳以上通勤・通学者数（令和2年） 》

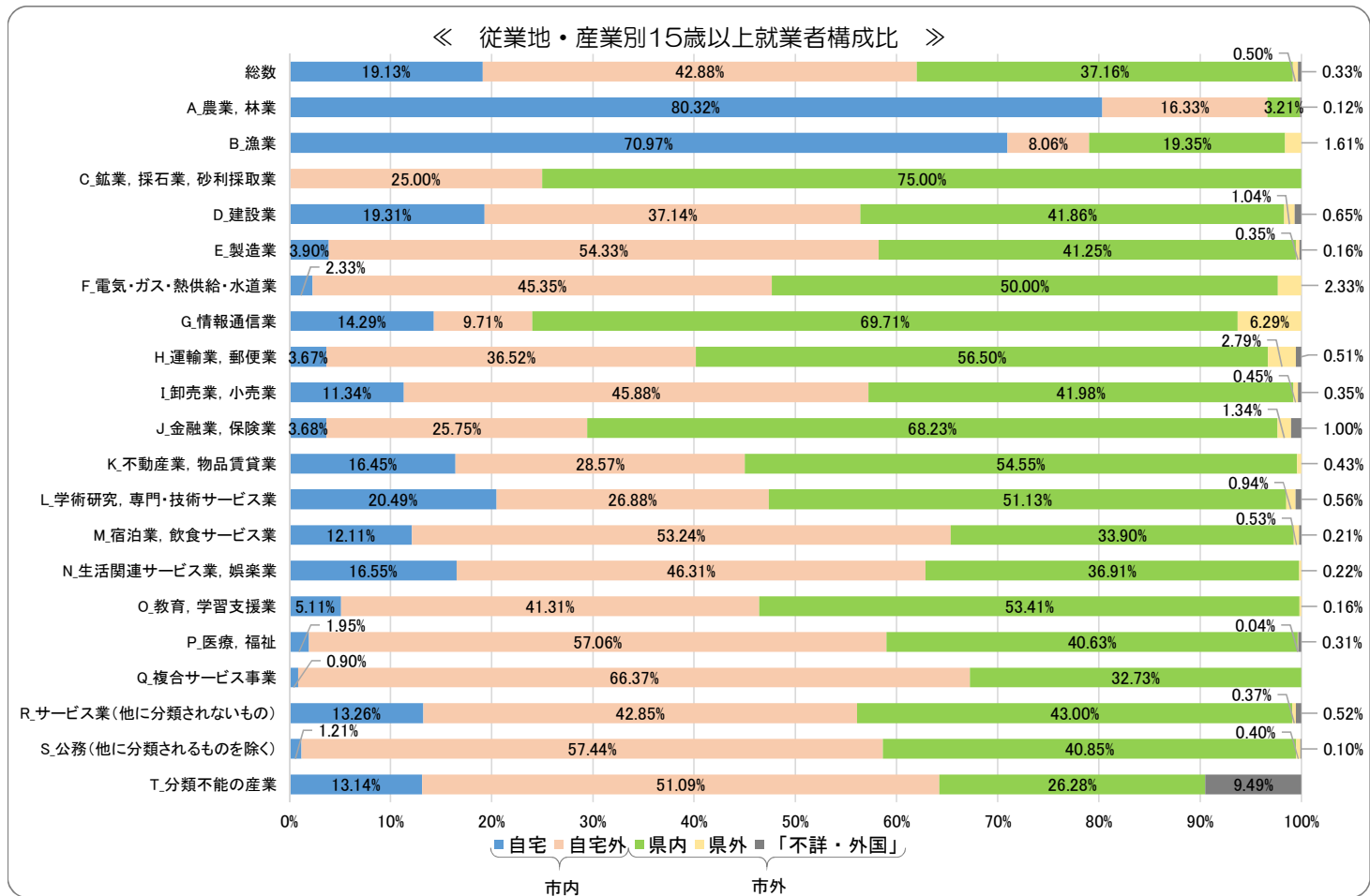


○流出・流入地別15歳以上通勤・通学者（令和2年）

従業地・通学地 又は 常住地	常住者の従業 地・通学地別 人口（人）	通勤・通学者 の常住地別人 口（人）	流入超過数 （人）	流出入地別割合（％）	
				流出	流入
総数	29,661	28,199	—	—	—
市内	17,548	17,548	—	—	—
市外（流出先・流入元）	11,863	10,276	△1,587	100.00	100.00
県内	11,541	10,160	△1,381	97.29	98.87
熊本市	5,632	3,498	△2,134	47.48	34.04
八代市	1,578	1,871	293	13.30	18.21
宇土市	2,230	2,212	△18	18.80	21.53
上天草市	261	561	300	2.20	5.46
美里町	319	468	149	2.69	4.55
嘉島町	279	98	△181	2.35	0.95
氷川町	258	608	350	2.17	5.92
その他市町	984	844	△140	8.29	8.21
県外	197	116	△81	1.66	1.13
福岡県	102	34	△68	0.86	0.33
長崎県	8	17	9	0.07	0.17
鹿児島県	21	14	△7	0.18	0.14
その他都道府県	66	51	△15	0.56	0.50
不詳・外国	125	—	△125	1.05	—
不詳（流出先・流入元）	250	375	—	—	—

【 従業地・産業別15歳以上就業者 】

15歳以上就業者に占める従業地の割合を産業大分類別にみると、「市内」は「農業、林業」が96.65%と最も高く、次いで、「漁業」が79.03%、「複合サービス事業」が67.27%などとなっており、「市外」では「情報通信業」が76%と最も高く、次いで、「鉱業、採石業、砂利採取業」が75%、「金融業、保険業」が70.57%などとなっています。



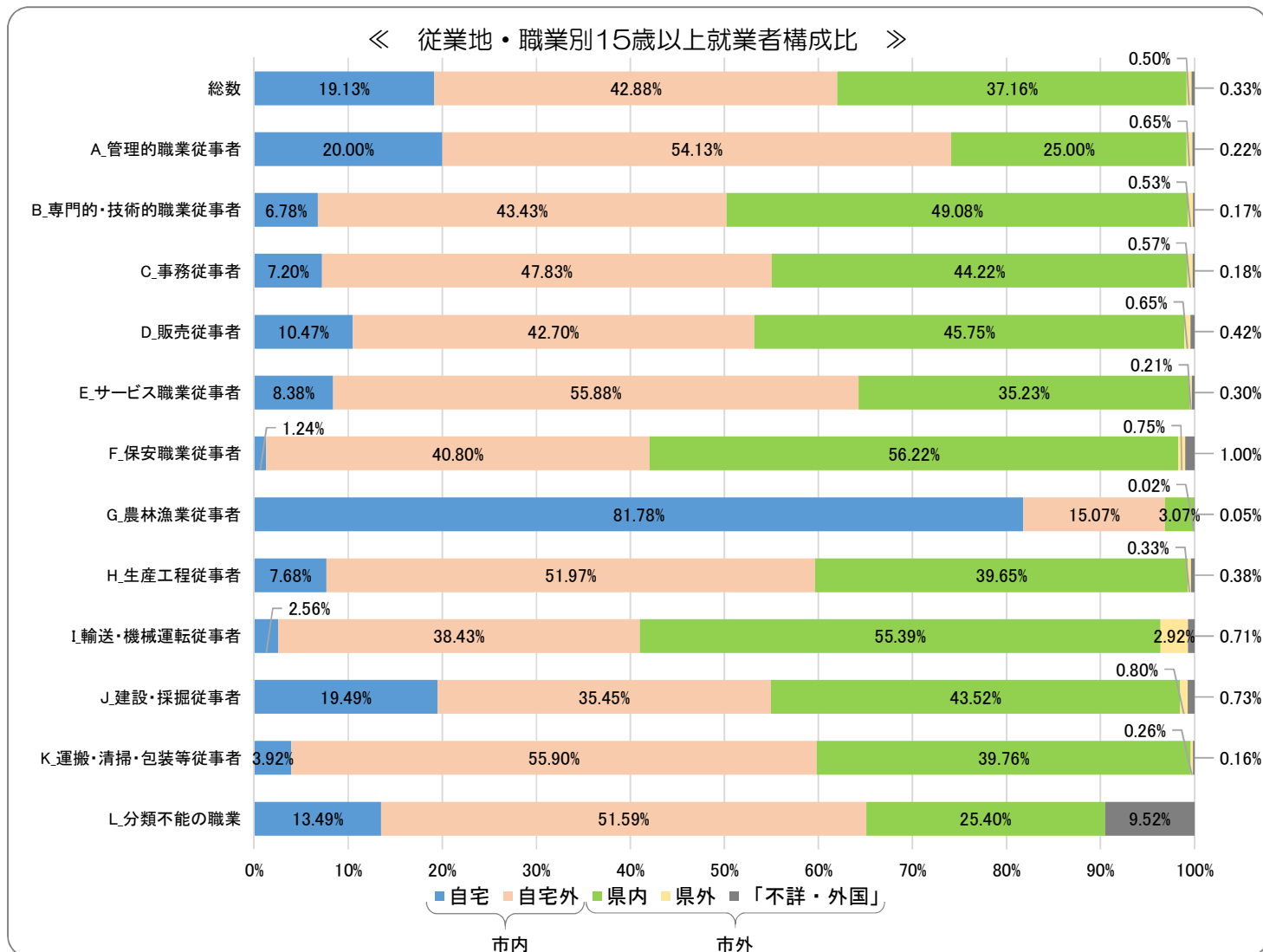
○従業地・産業別15歳以上就業者数

(単位:人)

産業大分類	総数	市内			市外			市区町村 「不詳・外国」	従業地 「不詳」
		自宅	自宅外		県内	県外			
総数	27,418	16,871	5,205	11,666	10,337	10,110	137	90	210
A_農業、林業	4,085	3,948	3,281	667	137	131	1	5	0
B_漁業	62	49	44	5	13	12	1	0	0
C_鉱業、採石業、砂利採取業	4	1	0	1	3	3	0	0	0
D_建設業	2,320	1,304	446	858	1,006	967	24	15	10
E_製造業	3,682	2,133	143	1,990	1,530	1,511	13	6	19
F_電気・ガス・熱供給・水道業	86	41	2	39	45	43	2	0	0
G_情報通信業	175	42	25	17	133	122	11	0	0
H_運輸業、郵便業	1,371	547	50	497	814	769	38	7	10
I_卸売業、小売業	3,785	2,154	427	1,727	1,610	1,580	17	13	21
J_金融業、保険業	299	88	11	77	211	204	4	3	0
K_不動産業、物品賃貸業	231	104	38	66	127	126	1	0	0
L_学術研究、専門・技術サービス業	533	252	109	143	280	272	5	3	1
M_宿泊業、飲食サービス業	948	615	114	501	326	319	5	2	7
N_生活関連サービス業、娯楽業	898	562	148	414	332	330	2	0	4
O_教育、学習支援業	1,235	572	63	509	660	658	2	0	3
P_医療、福祉	4,780	2,811	93	2,718	1,952	1,935	2	15	17
Q_複合サービス事業	334	224	3	221	109	109	0	0	1
R_サービス業(他に分類されないもの)	1,347	753	178	575	589	577	5	7	5
S_公務(他に分類されるものを除く)	995	583	12	571	411	406	4	1	1
T_分類不能の産業	248	88	18	70	49	36	0	13	111

【 従業地・職業別15歳以上就業者 】

15歳以上就業者に占める従業地の割合を職業大分類別にみると、「市内」は「農林漁業従事者」が96.85%と最も高く、次いで、「管理的職業従事者」が74.13%などとなっており、「市外」では「輸送・機械運転従事者」が59.02%と最も高く、次いで、「保安職業従事者」が57.97%などとなっています。



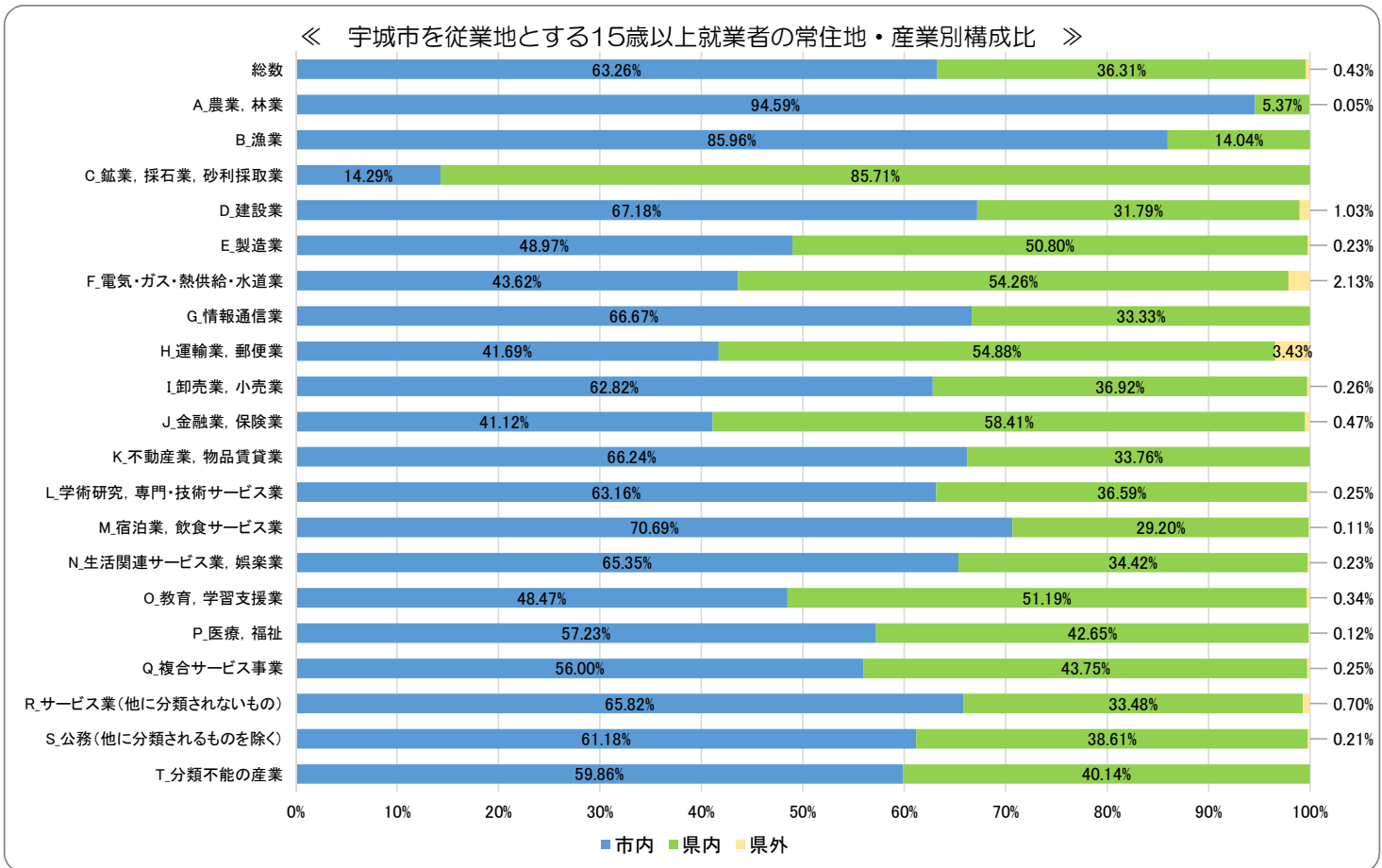
○従業地・職業別15歳以上就業者数

(単位:人)

職業大分類	総数	市内			市外			市区町村 「不詳・外国」	従業地 「不詳」
		自宅	自宅外	県内	県外	「不詳・外国」			
総数	27,418	16,871	5,205	11,666	10,337	10,110	137	90	210
A_管理的職業従事者	461	341	92	249	119	115	3	1	1
B_専門的・技術的職業従事者	4,154	2,080	281	1,799	2,062	2,033	22	7	12
C_事務従事者	3,882	2,132	279	1,853	1,742	1,713	22	7	8
D_販売従事者	2,611	1,381	272	1,109	1,216	1,188	17	11	14
E_サービス職業従事者	3,356	2,147	280	1,867	1,194	1,177	7	10	15
F_保安職業従事者	403	169	5	164	233	226	3	4	1
G_農林漁業従事者	4,035	3,908	3,300	608	127	124	1	2	0
H_生産工程従事者	3,705	2,199	283	1,916	1,488	1,462	12	14	18
I_輸送・機械運転従事者	1,143	464	29	435	668	627	33	8	11
J_建設・採掘従事者	1,506	823	292	531	675	652	12	11	8
K_運搬・清掃・包装等従事者	1,925	1,145	75	1,070	769	761	5	3	11
L_分類不能の職業	237	82	17	65	44	32	0	12	111

【 常住地・産業別15歳以上就業者 】

宇城市を従業地とする15歳以上就業者に占める常住地の割合を産業大分類別にみると、「市内」は「農業、林業」が94.59%と最も高く、次いで、「漁業」が85.96%、「宿泊業、飲食サービス業」が70.69%などとなっており、「市外」では「鉱業、採石業、砂利採取業」が85.71%と最も高く、次いで、「金融業、保険業」が58.88%、「運輸業・郵便業」が58.31%などとなっています。



※割合は、従業市区町村「不詳・外国」又は従業地「不詳」を除いて算出

○宇城市を従業地とする15歳以上就業者の常住地・産業別人数

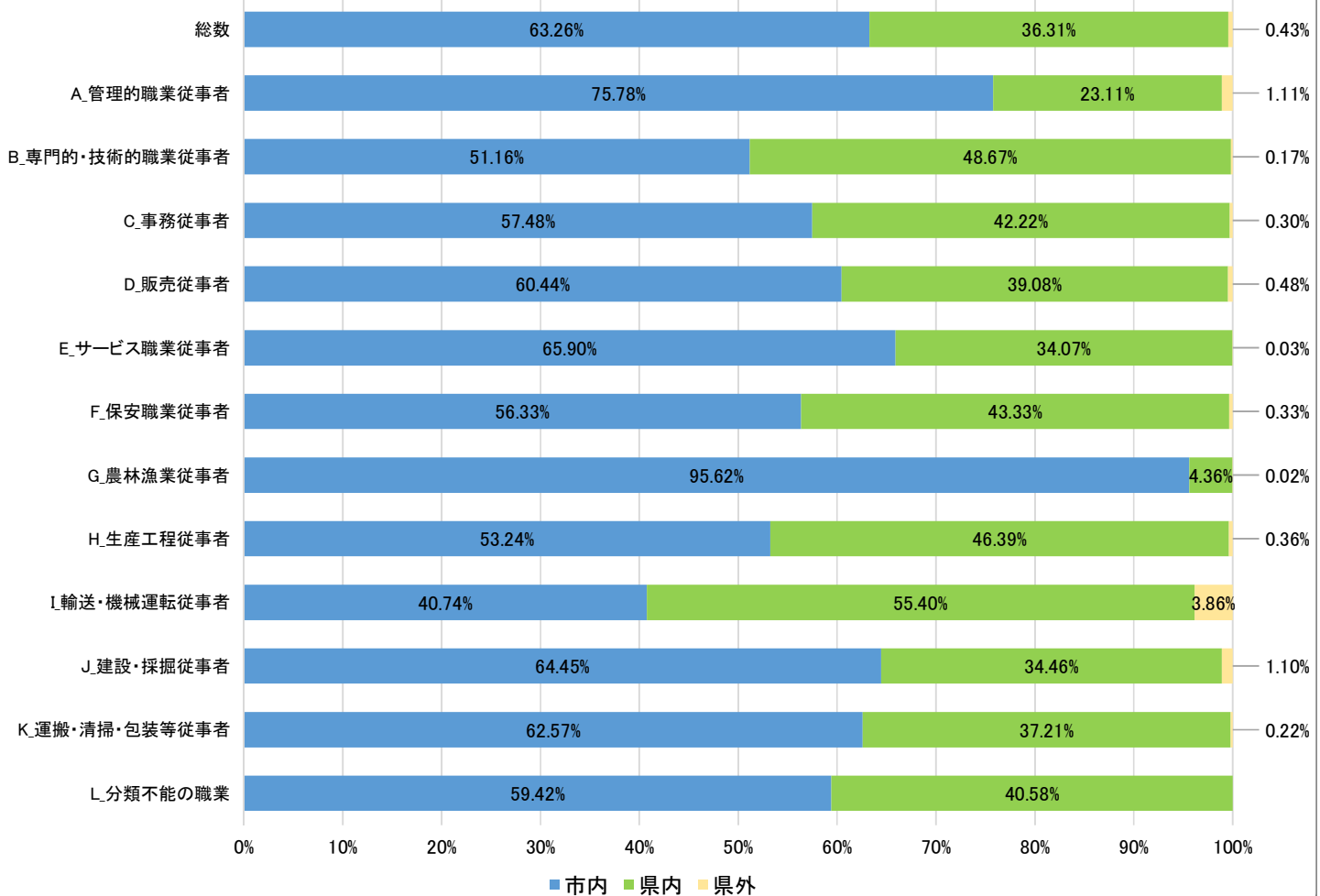
(単位:人)

産業大分類	総数	市内	市外	県内	県外	従業市区町村 「不詳・外国」又は 従業地「不詳」
総数	26,969	16,871	9,798	9,684	114	300
A_農業、林業	4,179	3,948	226	224	2	5
B_漁業	57	49	8	8	0	0
C_鉱業、採石業、砂利採取業	7	1	6	6	0	0
D_建設業	1,966	1,304	637	617	20	25
E_製造業	4,381	2,133	2,223	2,213	10	25
F_電気・ガス・熱供給・水道業	94	41	53	51	2	0
G_情報通信業	63	42	21	21	0	0
H_運輸業、郵便業	1,329	547	765	720	45	17
I_卸売業、小売業	3,463	2,154	1,275	1,266	9	34
J_金融業、保険業	217	88	126	125	1	3
K_不動産業、物品賃貸業	157	104	53	53	0	0
L_学術研究、専門・技術サービス業	403	252	147	146	1	4
M_宿泊業、飲食サービス業	879	615	255	254	1	9
N_生活関連サービス業、娯楽業	864	562	298	296	2	4
O_教育、学習支援業	1,183	572	608	604	4	3
P_医療、福祉	4,944	2,811	2,101	2,095	6	32
Q_複合サービス事業	401	224	176	175	1	1
R_サービス業(他に分類されないもの)	1,156	753	391	383	8	12
S_公務(他に分類されるものを除く)	955	583	370	368	2	2
T_分類不能の産業	271	88	59	59	0	124

【 常住地・職業別15歳以上就業者 】

15歳以上就業者に占める従業地の割合を職業大分類別にみると、「市内」は「農林漁業従事者」が95.62%と最も高く、次いで、「管理的職業従事者」が75.78%などとなっており、「市外」では「輸送・機械運転従事者」が59.26%と最も高く、次いで、「専門的・技術的職業従事者」が48.84%などとなっています。

＜ 宇城市を従業地とする15歳以上就業者の常住地・職業別構成比 ＞



※割合は、従業市区町村「不詳・外国」又は従業地「不詳」を除いて算出

○宇城市を従業地とする15歳以上就業者の常住地・職業別人数

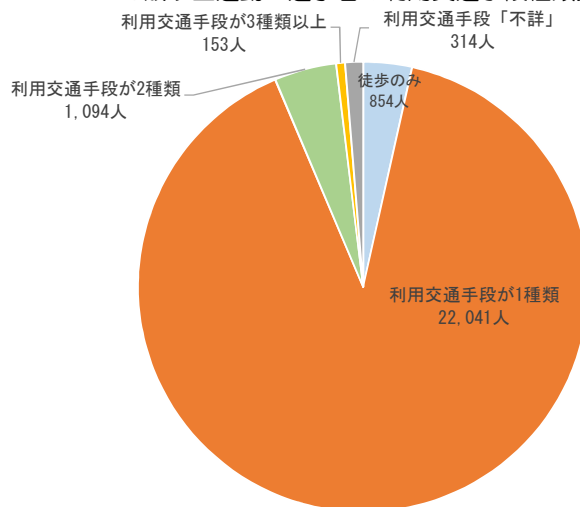
(単位:人)

職業大分類	総数	市内	市外	従業員市区町村 「不詳・外国」又は 従業員地「不詳」		
				県内	県外	
総数	26,969	16,871	9,798	9,684	114	300
A_管理的職業従事者	452	341	109	104	5	2
B_専門的・技術的職業従事者	4,085	2,080	1,986	1,979	7	19
C_事務従事者	3,724	2,132	1,577	1,566	11	15
D_販売従事者	2,310	1,381	904	893	11	25
E_サービス職業従事者	3,283	2,147	1,111	1,110	1	25
F_保安職業従事者	305	169	131	130	1	5
G_農林漁業従事者	4,089	3,908	179	178	1	2
H_生産工程従事者	4,162	2,199	1,931	1,916	15	32
I_輸送・機械運転従事者	1,158	464	675	631	44	19
J_建設・採掘従事者	1,296	823	454	440	14	19
K_運搬・清掃・包装等従事者	1,844	1,145	685	681	4	14
L_分類不能の職業	261	82	56	56	0	123

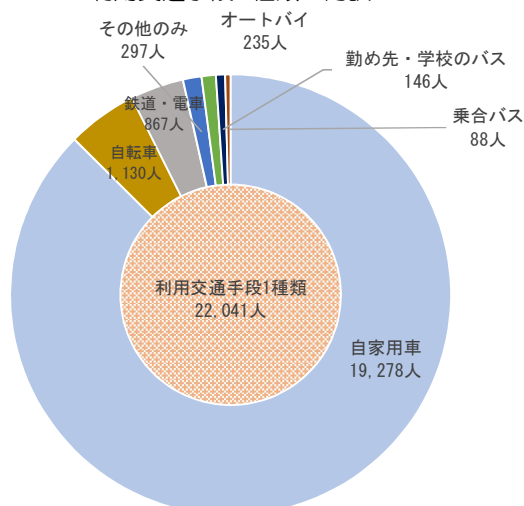
【 15歳以上通勤・通学者の利用交通手段 】

宇城市に常住する15歳以上通勤・通学者を利用交通手段別にみると、「自家用車」のみを利用する通勤・通学者が19,278人で78.83%と最も多くなっており、前回調査の平成22年と比べて、全体の通勤・通学者が減少する中でも人数、割合ともに増加しています。

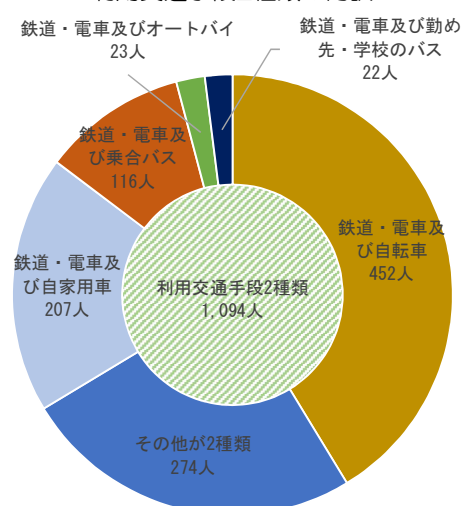
《 15歳以上通勤・通学者の利用交通手段種類数 》



《 利用交通手段1種類の内訳 》



《 利用交通手段2種類の内訳 》



○15歳以上通勤者・通学者の利用交通手段

利用交通手段	通勤・通学者数（人）		割合（％）		平成22年～令和2年の増減	
	令和2年	平成22年	令和2年	平成22年	増減数（人）	増減率（％）
総数	24,456	25,389	100.00	100.00	△933	△3.67
徒歩のみ	854	1,036	3.49	4.08	△182	△17.57
利用交通手段が1種類	22,041	22,406	90.13	88.25	△365	△1.63
鉄道・電車のみ	867	830	3.55	3.27	37	4.46
乗合バスのみ	88	139	0.36	0.55	△51	△36.69
勤め先・学校のバスのみ	146	95	0.60	0.37	51	53.68
自家用車のみ	19,278	19,071	78.83	75.12	207	1.09
ハイヤー・タクシーのみ	0	3	0.00	0.01	△3	△100.00
オートバイのみ	235	437	0.96	1.72	△202	△46.22
自転車のみ	1,130	1,598	4.62	6.29	△468	△29.29
その他のみ	297	233	1.21	0.92	64	27.47
利用交通手段が2種類	1,094	1,218	4.47	4.80	△124	△10.18
鉄道・電車及び乗合バス	116	157	0.47	0.62	△41	△26.11
鉄道・電車及び勤め先・学校のバス	22	8	0.09	0.03	14	175.00
鉄道・電車及び自家用車	207	197	0.85	0.78	10	5.08
鉄道・電車及びオートバイ	23	44	0.09	0.17	△21	△47.73
鉄道・電車及び自転車	452	579	1.85	2.28	△127	△21.93
その他利用交通手段が2種類	274	233	1.12	0.92	41	17.60
利用交通手段が3種類以上	153	214	0.63	0.84	△61	△28.50
利用交通手段「不詳」	314	515	1.28	2.03	△201	△39.03